

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 傷病鳥獣等保護経費
-------------------	------------------------

区分	番号	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	2	自然を生かした潤いのあるまちづくり
施策	1	人と自然が共生する潤いと安らぎのある環境の創出
小分類	2	自然環境の保全と回復
主要な施策	1	適切な自然環境保全活動の推進
事務事業番号	002	事務事業コード 22121002 事業開始年度 平成 2 1 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	傷病鳥獣等保護経費
------	------	------------	-----------

部 名	観光経済部	グループ名	農林水産 G
-----	-------	-------	--------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffff00;">(事務事業の実施目的を具体的に記載してください)</p> 市民から通報を受けた傷病鳥獣等を保護し、北海道の指示に従い、動物病院等へ搬送する。
手段 (事業の内容・活動)	<p style="background-color: #ffff00;">(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください)</p> (社)北海道猟友会室蘭支部鳥獣捕獲協議会に業務委託し傷病鳥獣の保護を実施する。 平成 2 2 年度実績 出勤回数 1 7 回 ・保護鳥獣 野鳥、野生の小動物等
成果	<p style="background-color: #ffff00;">(事務事業の実施成果を具体的に記載してください)</p> 病気やケガをしている野生動物を保護し、治療して、自然にかえす。 人と野生生物との共生を図ることにより、貴重な自然環境の認識を深めている。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffff00;">(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください)</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	保護頭(羽)数	頭 (羽)	目標値	12	22	22	22	22
			実績値	17				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	164	200	200	200	200	600
合 計				164	200	200	200	200	600
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	83	85			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		83	85			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である	妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？
	→	妥当ではない	
野生動物の保護、治療は市で財源を確保しなければ実施が困難であるため妥当である。			
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている	成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？
	→	どちらかといえばあがっている	
	→	成果があがらない	
野生動物に関する通報が多くなっており、随時対応できている。			
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる	どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？
	→	少し向上させることができる	
	→	向上させることはできない	
委託業者との連絡を密にし、その時々で適切な従事者に保護を行ってもらうことにより、時間を短縮することができる。			
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる	どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？
	→	削減できない	
現在、時間単価で契約を行っているため、予算がなくなると委託業者に出動を要請できなくなり、市民からの通報に対応することが困難になるため。			

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	野生鳥獣の自然復帰や市民の通報に適切に対応するために必要な事業である。
-----------	----------------------	-------------------------------------

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）